

が高くより一層の注意が必要だと思われます。

H B ワクチンや知識の普及により感染率は減少しまし

たが、さらに積極的な感染予防対策を考えていく必要があると思います。

15. 歯科病院における医薬品情報活動に関する検討 II

—二次資料 Year Book of Dentistry を中心に—

阪田久美子, 千葉智子, 野田早苗
(薬剤部)

近年医療において医薬品情報活動の重要性が認められつつあるが、歯科医療における DI 活動のあり方についてはわが国では殆ど検討されていない。そこで、当院薬剤部では二次資料である Year Book of Dentistry の情報源としての有用性を評価し、本書を中心に DI 活動をすすめてきた。1985年から89年までの5冊の本書抄録中、特に疾患と薬物に関する抄録を医薬品情報として取り上げ、解析した結果と DI 活動との関連について検討し、以下の結論を得た。

1. 全抄録に占める医薬品情報の割合は約20%となっており、先に我々が行った1980年までの本書の解析結果より増加していた。
2. 医薬品情報を収載していた雑誌としては、Oral Surgery と JADA が最も多かった事は、先の解析結果と同様であったが、新しい雑誌として Clinical Preven-

tive Dentistry や Compendium Continuing Education in Dentistry にも多かったことから、今後の情報源として重要であろうと考えられた。

3. 医薬品情報の内容としては、多くの口腔内疾患と治療薬、医薬品の口腔内への副作用などがあった。また医薬品としてはまだ認められていない特殊製剤の有効性の評価など貴重な情報を得ることができた。
4. 歯科疾患に関連する全身性疾患に関する情報が多かったことから、DI 活動の一つである学生教育においてこの問題を取り上げ、その効果について検討を加えることとした。
5. 今後、パーソナルコンピューターを用いて、Year Book of Dentistry の医薬品情報を中心としたデータベースを作成し、当院の診療並びに学生教育に活用することを検討したい。

16. アスベストとノンアスベスト裏装材における鑄造精度の比較検討

長岡 央, 山村 尚, 荊木裕司
松田浩一 (歯科保存 II)

歯科領域において、アスベストは鑄造修復時の埋没材の緩衝材として使用されているが、最近、人体への有害性が報告され利用は制限されつつある。我々は、新しく開発されたアスベストを含まない裏装材8種と従来から使用されているアスベストリボンを用い、実用性について比較検討した。

実験材料と方法：アスベストリボンとアスベストを含まないキャストイングリボン、ニューアスベストリボン、キャストイングライナー、松風試作、フラスクライナー、オーバルライナー、カオリンを用いて ADA, No. 2, MOD 試験体上で蠟形成を行ない、埋没、鑄造をおこない、得られた鑄造体を試験体に試適し、浮き上がり量を計測した。また、各裏装材の一回あたりの使用量からコストを算出し、使用感についても検討した。

結果及び考察：裏装材の厚さを測定した結果、ノンアスベスト系裏装材は、アスベストと比較して、厚手のものが多く使用に際しては、もし被圧縮量が同等とすればアスベストのように2巻、3巻と、巻数を増やさなくてもよいと考えられた。浮き上がり量について良好な成績を示したものはキャストイングリボン1巻2巻、ニューアスベストリボン1巻2巻、キャストイングライナー1巻2巻、松風試作1巻2巻、フラスクライナー2巻、オーバルライナー(1.5mm)1巻2巻、オーバルライナー(3.0mm)1巻、カオリン2巻であった。ノンアスベスト系裏装材はアスベストに比べて1巻当りの単価は、高く、また、製品によって、かなりコストの違いがあった。しかしながらアスベストリボンでは、2巻以上なければ良い適合性を、得られないのに対して、ノンアスベスト系で